

大椎っ子田んぼ・あすみっ子田んぼ 2010 脱穀編 -子どもたちの感想から-

体育館お米のいいにおいがする！と、学校を訪れた保護者の方々からの声を耳にします。9月に稲刈りをした稲は、およそ1ヶ月体育館で陰干しました。稲刈りをしたらすぐに食べられると思っていた子もいて、いつ食べることができると聞かれたこともありましたが、今は大型の機械で稲刈り、脱穀、乾燥、精米と行なうためすぐにとれたての新米を口にするのができます。しかし、機械を使わずになると、おだかけの天日干しから、千歯こぎでの脱穀唐箕での風選、そしてわらすぐりとかなり手間のかかる作業を何日もかけて行わなければいけません。この手作業による昔ながらの脱穀を子どもたちにも体験してもらいました。

■大椎小学校（10月21日・大椎小アリーナにて）

・私は、初めて千歯こぎをやりました。始めはうまくできなかつたのでとても難しいんだなと思いました。でもすこしできるようになったら「あっ、楽しいな」と思いました。昔の人はこの難しいことをやっていたと聞いて、とても大変だったんだなと思いました。（A. S）

・私は、初めて脱穀をしました。足踏み脱穀機や千歯こぎ、唐箕などを見ました。中でも唐箕は、大人の背丈ほどあるとても大きいものでした。足踏み脱穀機を初めて使ったときは、うまくできませんでした。でも2回目にやったときはうまくできました。（M. H）

・ぼくは脱穀作業で一番楽しかったことは、足踏み脱穀機です。また、もみすりをしたあとの玄米はかたかったけどかめばかむほど甘くなって、おいしかったです。唐箕のしくみもおもしろかったです。（Y. H）

・いよいよ脱穀をする時がきました。作業をするのはこれで最後なので、とてもはりきっていました。最初に千歯こぎで、いねからもみをとりました。いがいとかんたんだったので、びっくりしました。わらすぐりもがんばりました。一番たいへんだったのは、足踏み脱穀機です。足を動かしながら、稲束もうごかすことは、大変でした。早く自分たちで作ったお米を食べたいです。（H. S）

・足踏み脱穀機では、中のドラムに手が入らないように、稲束だけをいれてもみをとることをとても気をつけました。大椎っ子フェスタの時にみんなに今日やったことを伝えたいです。（A. S）

・学校の体育館で脱穀をしました。昔使っていた脱穀の道具は、足踏み脱穀機と千歯こぎです。さいしょは使い方がわからなかったけど、金谷さんと松下さんがいていねいに教えてくださったので、上手にできました。千歯こぎは昔は千本の歯があったそうですが、学校で使ったものは千本もありませんでした。足踏み脱穀機は、踏むタイミングをまちがえると、中のドラムが逆にまわってしまうので、難しかったです。いろいろなことがわかってよかった！と思いました。（N. S）

・今回は脱穀をしました。千歯こぎは、歯と歯の間に穂をついた稲をとおして米をとります。千歯こぎを使うのはかなり力がいりました。足踏み脱穀機は力がいらないうわりに、足でドラムをまわす早さを調整するのが難しかったです。（M. N）

・足踏み脱穀機を使うと、どんどんもみがとれたので簡単だなと思ったけど、千歯こぎでは歯と歯のあいだに稲穂が引っかかりむすかしかったです。でもなかなかできない体験ができたのでうれしかったです。（K. T）

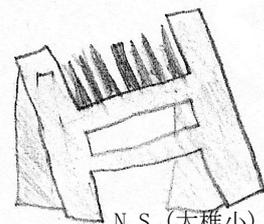
・唐箕という昔の風選する機械を見て、昔の物なのに性能のよさを感じることができました。そして昔の人の作業の大変さと、現代の機械の作業の簡単さを改めて感じました。（H. K）

・ぼくは今日脱穀をしました。まず始めにモミを稲からとる作業をしました。とる道具は2つあって、1つは歯が何本もでている千歯こぎで、その歯と歯のあいだに稲をいれてひくとモミがとれます。2つ目は足でドラムを回転させる足踏み脱穀機です。歯のついたドラムに稲の束をいれるとモミがはずれていきます。それが終わると、モミとわらすぐりを区別する作業を手でやりました。きれいに区別できたら、もっと細かいわらすぐりを取り除くのに唐箕という機械でモミだけにします。最後にもみすり機でもみをとるとさらさら米ができました。これが玄米です。（T. I）

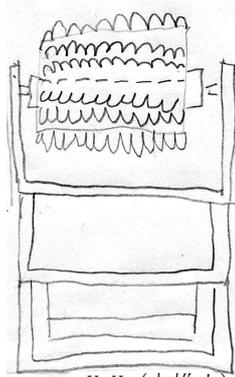
・ぼくは稲の脱穀をしました。もみがらをとる機械でできた玄米は甘かったのに、自分でむいたのを食べたらそんなに甘くありませんでした。こんなめったにできない体験ができてうれしかったです。なにか機会があったら、またやりたいです。（S. B）

・私は今日初めて脱穀をやりました。なんだかむすかしそうだなと少し心配でしたが、たんだんとやっていくうちに楽しくなりました。もみすりを終えた玄米を食べてみたらとてもおいしかったです。最初から最後まで脱穀作業をめったにできないと、金谷さんが言っていたので、とても貴重な体験をしたと思います。この体験を通してたくさんのことを学べたのでとてもうれしかったです。またお米づくりをしてみたいと思いました。（A. T）

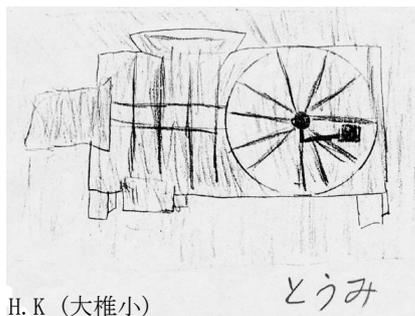
千歯こぎ



N.S (大椎小)

足
ふ
み
だ
こ
ぎ

Y.H (大椎小)



H.K (大椎小)

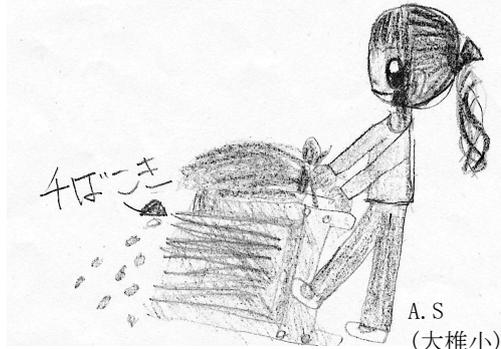
とうみ

■あすみが丘小学校（10月20日・あすみ小アリーナにて）

・脱穀の作業では千歯こぎと足踏み脱穀機を使いました。千歯こぎは、歯と歯の間に稲を入れて引っばるともみがとれる物です。足踏み脱穀機は、中の針金がついたぼうを手でまわして足元にある板をふんで、ぼうが速くまわってきたら稲をしっかり持って入れるともみがとれる物です。そのもみをとうみという物に入れるとごみを取

りのぞいてくれます。もみすりの作業は、もみすり機にとうみに入れたもみを入れると玄米ともみがらをわける物です。人生初の脱穀、もみすりは楽しかったです。(K・M)

・私は足踏みだっこきを体験しました。はじめ、赤組からやりました。さいしょは手でもみを私はとりました。何百つぶぐらいあるのを手ですっていたらすごく大変で、きかいでやったら速いなあとと思いながら手で取りました。やっと白組の番がきて足踏みだっこきを初めてやりました。手でもみをとるより、きかいでやったほうがはやくはやく、足でふむのがもっと大変でした。ちゃんとふまないで反対回りになってしまい、私は何度もちょうせんしました。やっとはいやく回り、いねをきかいに出してみると、すこしいきおいでもみがとれていって、びっくりしました。のこったもみは、手で取りました。その後にはわらをそろえました。思ったよりきかいでも大変でつかれました。でも足踏みだっこきの体験ができ、とってもおもしろかったです。今度またできるきかいがあったら、できなかった千歯こきをやりたいです。(N・N)



・ぼくは最初に足踏み脱穀をやりました。最初にペダルがとっても重かったけど、スピードが上がるにつれてペダルが軽くなり自動的にペダルが上下していました。稲をかざすと、「チ、チ、チ、チ、チ、チ、チ、チ」という音がしてもみがほぼとれていました。次に千歯こきをしました。ミニの練習をしてから本番をやりました。最初の方は、とっても重くて上りにくかったけど何回かやってもみが「ブチ、ブチ、ブチ」ととれていってとっても気持ちよかったです。ぼくは昔の人はちえがあると思いました。(K・N)

・私は、足踏み脱穀がとっても楽しかったです。稲の先をそろえて、はり金のようなものがついたまるいものに合わせて、足でふむというのがおもしろかったです。千歯こきでは、稲を力強く引っ張るのがおもしろかったです。引っ張るたびに、稲がはじきとんで、とれてるなあというのがわかるので楽しかったです。げん米にする機械は、足ふ

みだっこきよりも小さくて、とても工夫されているなあと思いました。げん米になったお米をさわってみると、家で食べている精米と同じさわりごちで、とてもうれしい気分になりました。お米ができあがるまでは、とても大変ということがとてもよくわかりました。いつも私たちが食べているお米をつくってくれている方々に感しゃしなければと思いました。(N・N)

・ぼくは、このもみすりや脱穀をして、いろいろなことを学びました。脱穀の時は、まず最初に、足踏み脱穀機を使いました。最初は、ペダルをふんで回す時、反対の方向に回ってしまうことがありましたが、最後には、いねがうまく取れたのでよかったです。今度は、千歯こきを使いました。上から下にのこぎりのように引きながら、いねを取りました。これは、うまくできました。もみすりは、ブチブチといなほからいねを取る作業で、この音と感しゃがとってもおもしろく、とても楽しかったです。しかし、次のわらを束ねるこていはいねをできるだけ取ってから行かないといけないのに、そのいねがなかなか取れず、少し困りました。でも、こんなぎちょうな事をしてくれたのでとても感しゃしています。早くこのお米が食べたいです。(R・T)

・脱穀は足踏み脱穀機や千歯こきを使って、もみを稲から取ります。千歯こきは江戸時代のころに作られた古くから使われている機械だということをしりおどろきました。足踏み脱穀機は千歯こきよりは新しく千歯こきよりは楽だったけど、ペダルをふみボルトを回すけど、ペダルが重く、稲穂がすごく引られました。この作業が終わってからもみすりをしました。もみすりは指と指ではさみ、もみだけを取ります。これは、脱穀で取れなかったこまかいもみを取ります。このあと、下に落ちていた草ともみをちりとりで取り底に四角い穴があけてあるカゴを何じゅうにも重ね、そこにさっき取ったもみと草を上から落としていき草ともみをわけました。その作業は一人じゃできないので優君といっしょにやりました。今日は貴重な体験をさせていただいてうれしかったです。(K・K)

・私は今日、初めてだっこの作業をやりました。見ためでは、あまり作業がかんたんそうじゃなかったけど、話を聞いて実際にやってみたら、だっこの作業になれてきました。私が一番興味を持ったのは、もみすりです。残ったお米を手ですることです。残っているお米を探すのは、少し大変で手がいたくなるけど、見つけたお米を手です「パチン、パチン」ととる事に興味を持ち、友達とどんどん残っているお米をとっていきました。だっこの興味を持ち、どんどん作業をやったら、あつという間に約2時間もたっていて給食の時間になってしまいました。私はこの約2時間がたったの30分に思えました。だっこのお手伝いをしてくれたお母さん達、YPPの皆さんありがとうございます。今日も楽しい一日を過ごせました。(M・O)

・脱穀するときぼくは千歯こき、足踏み脱穀機の両方を行いました。比べてみると千歯こきは一気にたくさんとれますが最後までやっても少しもみがのこってしまいます。足踏み脱穀機は最後までやっても少しも残らずきれいにとれます。しかし足で板をふみながらやるので、長時間やるとつかれてしまいます。ぼくはどっちでもやりやすいと思いました。ぼくはもみすりもやりました。親指、人差し指ではさんで押し上げるようにしてやるとぶちぶちと一気にとれます。ぼくはこれにはすごくはまりました。ぼくは脱穀ももみすりもどっちも楽しかったです。(D・T)

・アリーナには、知らない機械がいくつもありました。なので、あれはどのようにつかうのかなと思いました。でも田んぼにわい人たちがわかりやすく説明してくれたので、わたしもやってみたくていいなと思いました。田んぼで使われている道具は、とてもくふうされており少しでも早く作業が出来るような形になっていました。わたしはせんばこきという物を体験してみたのですが、やってみるとすごく大変で手からぼろぼろと取れてしまいました。わたしはあらためてお米を作っている人はすごいなと思いました。お米を作った人に感しゃをして食べたいなと思います。(R・M)



A.T (大椎小)



里山たんけんレポート

第 130 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い 生きもののつながり ーたんぼのいきものー

2010年11月7日(日) 晴れ

今日はたんぼのいきものをテーマに観察しました。秋は赤とんぼの季節です。トンボも大部分は止水域で幼虫時代を送りますからたんぼの生きものと言えます。赤とんぼを捕らえて同定、記録、マーキングして放しながら何時ものとおりに谷津を巡りました。秋も深まり赤とんぼも他の昆虫の姿も少なくなっていました。そんな中でコバネイナゴはまだ元気な足元からパタパタ飛びだしていました。ナガコガネグモは姿を消し、林縁のジョロウグモはまだ頑張っていました。午後からは2箇所のたんぼの表面近くを泥ごと掘り見られた生きものを記録しました。たんぼの中の生きものも極わずかになっていました。メダカも姿を見せず、そんな中でアメリカザリガニの子のみたくさん見られました。また、オニヤンマの幼虫が以外にもたんぼの中にもいました。マルタニシ、オオタニシ、サカマキガイの貝類はいつもどおり見られました。特記は径4mm程の二枚貝が見つかりましたがマシジミとも形態が違うようで調査中です。(湧水の出ている田ではメダカの群れが見られ、小川ではタモロコ、ドジョウ、シマドジョウ、トウヨシノボリなどが見られました。)

(参加者 大人10名、高校生4名、子ども1名； 報告：網代春男)

第 114 回 下大和田 YPP「緑米の稲刈り」

2010年11月6日(土) 晴れ

下大和田のたんぼでは今年最後となる稲刈りが行われました。種類は古代米である緑米の収穫です。緑米は今年から2箇所のたんぼに分かれて植えられました。1箇所は千葉市こども交流館の皆様が中心に、もう1箇所はたんぼ十回講座およびYPPの参加者によって植えられたものです。稲刈りを始めるにあたり、この日は小さなお子様連れのご家族が多いため、特に鎌の使い方や、管理の仕方の説明がスタッフから入念にされました。刈り始めると、皆様久しぶりの泥と、使い慣れない鎌の扱いに四苦八苦といった感じでした。刈り取った稲を稲藁で縛り、オダ掛けに干すのも大変な作業です。それでも稲刈りが今日初めての方が多いいせいか楽しそうに作業が進みます。作業の傍らでアカガエルやカマキリを捕まえて遊ぶお子様もいます。途中昼食をはさみ、時間はややかかりましたが何とかすべての稲を刈ることができました。稲刈りの終了間際に、泥の中から下大和田では初出現であるイシガメの子亀を見つけるおまけもありました。何より良かったのは無事に楽しく稲刈りを終えることができたことでした。



(参加者：大人19名、小学生以下16名；報告：平沼勝男)

第 115 回 下大和田 YPP「古代米の脱穀」・番外「もみすり」

2010年11月13日(土)

晴れ

今年のたんぼでの最後の作業になる古代米の脱穀をしました。ちょうど一週間前に刈った緑米、赤米は好天のおかげでしっかり乾燥してくれました。エンジンを使った脱穀は危険を伴う作業なので最初に手順や注意事項をみんなで確認しました。機械は順調で、参加した皆さんが大人も子どももとても要領よく活躍してくださったので、昼過ぎの早い時間に全部稲こきを終えることができました。お米が詰まった袋が道路に並び、稲やおだがなくなったたんぼは広々としています。そんな光景にみんな満足顔でした。

今年収穫したコシヒカリと古代米は11月20日(土)に有志が集まってもみすりをし、玄米になりました。

(参加者：大人12名、小学生1名、幼児5名；報告：高山邦明)



番外 小山町 YPP「稲刈り・脱穀」

遅れていた小山の稲刈りは10月のYPPに続いて11月3日に一度有志が集まって刈り、残りを少しずつたんぼに来られる人が刈って、11月21日に全部刈り終えました。脱穀はいつものように足踏み脱穀機を使い、3度にわたって参加できる人が行き、11月28日にこき終えました。皆さん、お疲れ様でした。

(報告：高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 11月7日 斜面林の縁でリンドウがたくさん咲いていた。あちこちでアオジの地鳴きが聞こえる(高山)。
- 11月21日 放棄田のアシ原からアリスイの大きな声が出た(高山)。
- 11月28日 今季はじめてカシラダカの姿を見る。暖かな日差しに誘われて田んぼにアキアカネ、ナツアカネ、マユタテアカネが来ていた(高山)。

下大和田

- 11月13日 ベニマシコと思われる声を聞く(網代・高山)。
- 11月20日 ヒラタケ(食用キノコ)が発生していました。昨年この時期に同じ木に発生していました(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意:
- ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。
 - ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
 - ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
 - ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第116回 下大和田 YPP「収穫祭」・第117回「どんど焼きと昔あそび」

今年最後のイベントは皆さんお楽しみの収穫祭です。みんなで穫った緑米はもちつきに、コシヒカリはお釜で炊いていただきます。1年間の米づくりをふりかえりながらお腹いっぱい収穫を味わいましょう。

そして、年明け最初のYPPもまたまたお楽しみのどんど焼きと昔遊びの会です。

- 日時: 収穫祭 2010年12月18日(土) 10:00~14:00
 どんど焼き 2011年1月9日(日) 10:00~14:00 いずれも小雨決行
- 場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)
- 集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)
- 持ち物: 弁当、お皿・お椀・はし、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、どんど焼きで燃やしたいものなど。
- 参加費: 収穫祭 小学生以上一律500円(食材費を含む特別料金です)、小学生未満無料
 どんど焼き ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料
- 主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第132回 下大和田 1月の谷津田観察会とごみ拾い「冬越しの鳥-何を食べている?-」

冬越しの鳥を観察しながら谷津を巡り、谷津田の食物連鎖を考えてみましょう。これまで観察してきた生きものの関わり合いをカードに図示して谷津田の「食物連鎖のピラミット図」を作りましょう。

なお、今回は上記YPPと同時開催になります。

- 日時: 2011年1月9日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行
- 場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田YPPに同じ)
- 集合: 下大和田YPPに同じ
- 持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
- 参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
- 主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼第61回 小山町 YPP「田んぼの手入れ・自然観察」

年内最後のイベントは今年一年お世話になった田んぼの手入れをします。また、冬鳥たちでにぎわう初冬の谷津を散策して自然観察もしたいと思います。

- 日時: 2010年12月12日(日) 10:00~12:30 *小雨決行
- 場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)
- 持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば双眼鏡など。
- 参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
- 主催: ちば環境情報センター

編集後記 今年小山では地元の2つの小学校の5年生が米づくりをしました。子どもたちの感想を見ると、最初は「田んぼはきたない」、「生きものは気持ち悪い」、「鎌はこわい」と感じていたのが、体験してみると、皆さん、「気持ちいい」、「かわいい」、「楽しい」など大きく気持ちが変化していることがよくわかります。もし、こうした経験をするこなく大人になったら、田んぼはずっと汚くて、生きものは気持ち悪いもののみまだったかもしれません。将来、環境のこと、地球のことを考える時に、この体験がきっと何らかの役に立ってくれることでしょう。子どもたちの感想文に学校田んぼの大切さを改めて感じました。(高山邦明)